

SA-366型初期化の方法

初期化は表示部の文字が乱れたり、「アドレスエラー」が表示されたり、機械動作が異常の場合には一度全ての項目の初期化を行います。

また、登録メモリデータを削除するときや、「メンテナンス」項目の数値設定を初期データに戻す等、各データをデフォルト（初期）値に戻す場合に各項目の初期化を行います。

初期化を行う場合には次の手順で行います。

- 1) 予め数値を確認しておく。
 - ・メイン画面から「環境設定」を押し「メンテナンス」をおす。
 - ・2桁のカウンタが表示されますので、「4 2」を入力して「決定」を押し。
 - ・6桁のカウンタに表示されている数値を書きとめる。（460～560の範囲が標準）
 - ・「取消」を押し、メイン画面に移行する。
- 2) 電源を切り、機械本体の非常停止を押し。
- 3) 電源を投入する。
- 4) データ初期化メニュー画面が表示されますので、「機種設定」を押し機種を選択します。
 - ・「SA-366A」「SA-366B」の何れかを選択します。
 - 「SA-366B」は、ハンドや剥き刃を駆動させるモータが300Wの場合に適用しますので、それ以外は「SA-366A」を選択して下さい。
 - （カス受けボックスの奥にあるモータが対称になります。）
- 5) 機種を選択しますとデータ初期化メニュー画面に戻りますので、初期化する対称データの項目を選んで初期化を行います。

初期化項目には

 - 「環境設定」・・・運転データを初期値にする（切断長・最高送り速度等）
 - 「稼働状態」・・・現在までの稼働データを初期化する（自動運転累積時間等）
 - 「メンテナンスデータ」・・・パラメーターの数値を初期化する（メーカー設定データ）
 - 「メモリ機能」・・・メモリ登録されているデータをクリアする

の4項目があり、それぞれの項目を押し、”**データを初期化しますか”

「はい」「いいえ」と表示されますので、初期を行う場合には「はい」を押します。
- 6) このように初期化するデータ項目を選んで作業を行います。
- 7) 初期が終了したならば、非常停止を解除して「終了」を押します。

通常のメイン画面になりますので、各設定を確認して作業を行って下さい。

注) 「メンテナンスデータ」を初期化した場合には、1) 項で確認したメンテナンスの「4 2」番のデータも初期値となりますので、初期化後再度メンテナンスの「4 2」番を確認し、数値が確認したデータと異なっている場合には、確認した数値に変更して下さい。

この数値は剥き刃後方に取り付いているフォトセンサーの間隔数値で、例えば左原点センサーと右原点センサーの間隔が46.5mmの場合には465となります。

この数値は各機械によって多少初期値と異なりますので、必ず確認した数値を設定して下さい。

数値が正常でない場合には、自動運転中に「右原点センサーエラー」となります。